

## かるたとり大会 試合方法

岡山市子ども会育成連絡協議会

### 低学年の部（幼児～3年生）・・・善行いろはかるた

- 1 同学年同士の個人戦とする。ただし、幼児の部は就学前の幼児による個人戦とする。
- 2 選手は所定のコートに着座する。
- 3 進行により、競技方法を説明し、主審（旗係）・副審（記録係）は記録用紙に選手名を記入
- 4 選手は、進行の合図により挨拶をかわし、手を膝の上におき開始合図を待つ。  
※進行の指示により、かるたは主審・副審でちらしまきに並べる。
- 5 進行の合図で競技を開始する。読み手は、読み札を2回わかりやすくゆっくり朗読する。  
選手は読み札の朗読が始まると同時に札を取る動作を開始する。
- 6 お手つきは反則とし、1回毎にお手つき札を渡して試合後の集計表に記載する。
- 7 同時にとり札をおさえ勝敗の判定ができない時は、どちらのとり札数にも入れない。（その札は同時札とし、札と同時札と一緒に試合終了まで主審のそばに置き、集計表に記載する。）
- 8 そのほかの反則に対しては、二度まで警告して守らない場合は、その都度その選手に警告札を渡し、試合後集計表に記載する。※警告札は、おてつき札と同じ扱いとする。
- 9 かるたの札が残り10枚になった時点で、真ん中に寄せる（審判のみ）最後の一枚は残す。
- 10 とり札数が同数の場合は、お手つき札を差し引いた枚数で勝敗を決める。それでも同数の場合は、くじで決める。

#### 【同数の場合の内規】

- （1）勝敗くじを引く順番を事前に決める。（ジャンケンなど）
- （2）決勝戦でとり札数が同数の場合に限り、奇数札（7枚～9枚）を取り合うプレーオフを行い、勝敗を決める。（ちらしまきにして5枚先取で勝負を決める）

### 高学年の部（小学校4～6年生）・・・人生訓かるた

- 1 とり札を半分（35枚）ずつに分け、それぞれの競技者の方に字を向け、中心線から12枚・12枚・11枚と3列に並べる。速やかにかるたを並べ、一度並べたかるたは並び変えない。（札の間隔は5mm以内とする。）
- 2 進行により、競技方法を説明し、主審（旗係）・副審（記録係）は記録用紙にチーム名を記入する。 ※各チームハンデがある場合は記録用紙に事前に記入あり。
- 3 各チーム3名の選手は、正座して線に膝をそろえ（着座順は任意）、進行の合図により挨拶をかわし、手を膝の上におき開始合図を待つ。
- 4 進行の笛の合図で競技を開始する。読み手は、読み札を上句は1回、下句は2回ゆっくり朗読  
選手は読み札の朗読が始まると同時に敵札、味方札に関係なく取ることができる。もし、敵側の札を取った時は、敵側の未札1枚をもらい、味方の残り札の中に並べて試合を再開する。（この時、他の札にはさわらない。）
- 5 お手つきは反則とし、1回毎にお手つき札を渡して試合後の集計表に記載する。
- 6 同時にとり札をおさえ勝敗の判定ができない時は、どちらのとり札数にも入れない。（その札は同時札とし、札と同時札と一緒に試合終了まで端の方にふせておき、集計表に記載する。）
- 7 そのほかの反則に対しては、二度まで警告し（記録係）、なお守らない場合は、警告札を渡す。  
※警告札は、お手つき札と同じ扱いとなる。
- 8 残り札が5枚になった時点で捨て札を読み、最後の1枚まで取らせる。
- 9 試合終了後、記録係はチームのとり札枚数を集計する。※ハンデのあるチーム（記録用紙に事前に記入しておく）は、相手チームへハンデをプラスしてスタートとなる。ハンデ+取り札-おてつき札（警告札）の合計を記入する。
- 10 同数の場合は、くじで決める。